

## 愛知県名古屋市の都市部の湧水から採集されたアオミドロ

*Spirogyra neglecta* (接合藻綱) の接合と接合胞子の記録

\*野崎健太郎 (椋山女学園大学教育学部)

## 講演要旨

2016年8月8日に名古屋市千種区に位置する椋山女学園大学附属小学校の湧水から採取されたアオミドロ属 *Spirogyra neglecta* (Hassall) Kützing の形態的特徴を、栄養細胞、接合および接合胞子の顕微鏡写真を用いて記載した。日本の代表的な淡水藻図鑑(日本淡水藻図鑑, 内田老鶴甫, 1977年)には本種の記載はない。栄養細胞は隔膜が平板状, 葉緑体は3本で1~2回転, 細胞幅 54~74  $\mu\text{m}$ , 長さ 79~377  $\mu\text{m}$  ( $n=171$ ) であった(図1, 2)。生殖細胞は円筒形, 接合は梯子状で接合管は両端から伸びていた。接合胞子は楕円形あるいは卵形で, 幅 49~69  $\mu\text{m}$ , 長さ 67~127  $\mu\text{m}$  ( $n=156$ ), 胞子膜中層は平滑で厚く黄褐色であった(図3-5)。これらの形態的特徴は *Spirogyra ternata* (Ripart) と類似しており, 慎重に比較を行った。調査地の水温は 26.6  $^{\circ}\text{C}$ , pH は 7.0, 電気伝導度は 19.3  $\text{mS m}^{-1}$  であった。溶存無機態窒素濃度は 4500  $\mu\text{gN L}^{-1}$  で硝酸態窒素が約 99% を占め, リン酸態リンはわずか 1  $\mu\text{gP L}^{-1}$  であった。

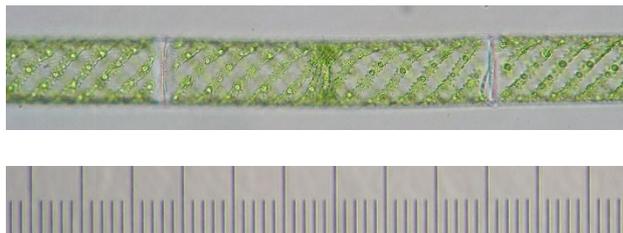


図1. *Spirogyra neglecta* の栄養細胞の光学顕微鏡写真(200倍, 2016年8月9日)。対物マイクロメーターの1目盛りは10  $\mu\text{m}$  である。

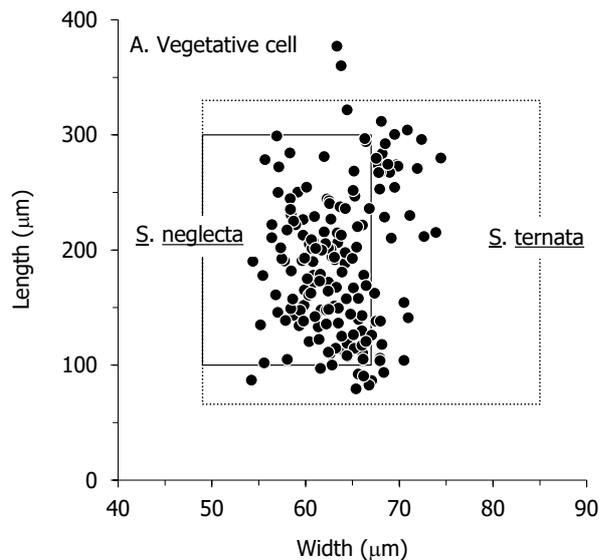


図2. *Spirogyra neglecta* の栄養細胞の幅と長さとの関係。測定値171のうち77%が, これまでに発表されている *S. neglecta* の文献値の範囲に入った。

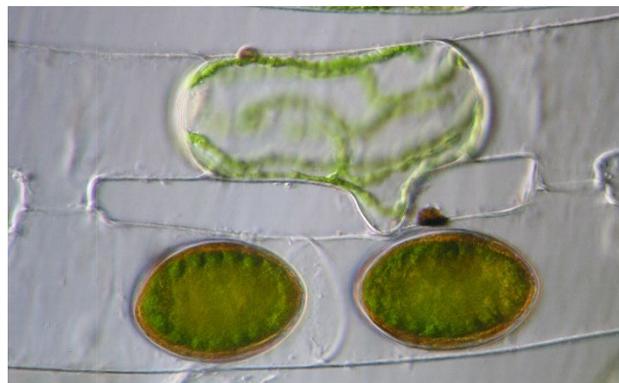


図3. *Spirogyra neglecta* の接合と接合胞子の光学顕微鏡写真(400倍, 2016年8月20日)。

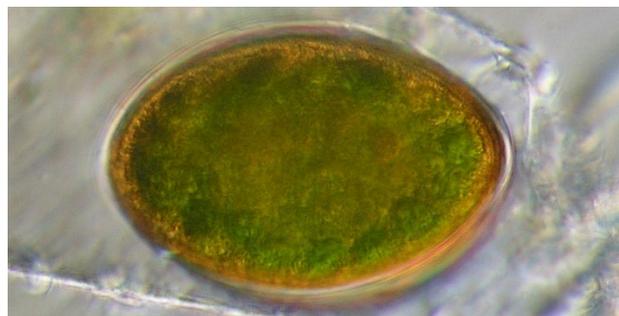


図4. *Spirogyra neglecta* の接合胞子の光学顕微鏡写真(400倍を拡大, 2016年9月14日)。

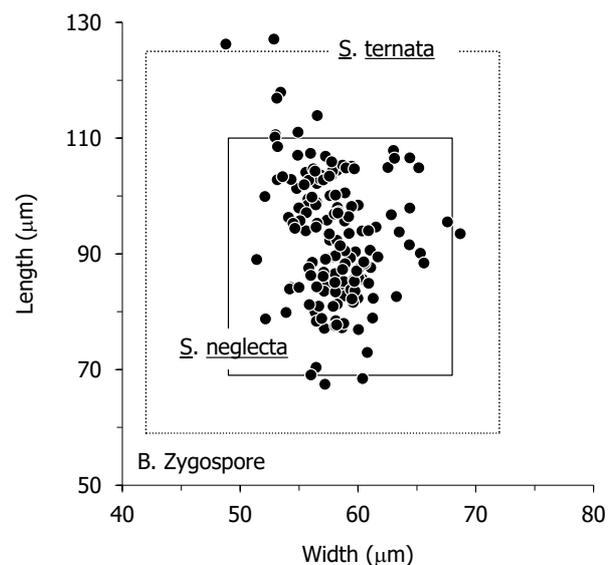


図5. *Spirogyra neglecta* の接合胞子の幅と長さとの関係。測定値156のうち94%が *S. neglecta* の範囲に入った。